

月曜評論

中東危機の膠着化、インドシ
 小半島の事態の急変に象徴され
 る今日の国際情勢の大流動が意
 味するものはなにか。それは第
 一に、いわゆるテラント（緊張
 緩和）外交によって印象づけら
 れた大國間の現状維持的・勢力
 均衡的な国際政治の枠組におい
 ては、状況の不安定性ゆえに過
 度の内発的エネルギーを有する
 同時多発的な地域紛争をなら
 解決し得なかったことといえ
 よう。この点でキッシンジャー
 外交のシンジマが今日、集中的
 に露呈してしまつた。

第二には、今日の地域紛争
 が、中東とインドシナとのあ
 だにも見られたように、きわめ
 て鋭敏な運動的性格を有して
 ること、あり、このことは、国
 際的相互依存関係が大きい今日
 の世界の性格を反映している
 と共に、当面は、インドシナを中
 心とする東南アジアから朝鮮半
 島や台湾を中心とする東ないし
 は東北アジアへの危機の運動性
 への関心を高めさせずにはおか
 ないであろう。

条項の問題は、周知のように、
 わが国の外交と国際関係の上
 で、きわめて刺激の多い難題で
 ある。

「覇権」条項についての中国
 側の主張は、きわめて原則的か
 つ一貫性をもつものであり、米
 中上海コミュニケ以来、諸外国
 とのほとんどの共同声明が、こ
 の条項を含んでいるだけに、中
 国側が新憲法によつても公認さ
 れたその立場を主張するのは当
 然であろう。問題は、それが条
 約ごうかたちで提起されたの
 は、日中平和友好条約が最初の
 ケースである点にあると同時に、
 「日中国交正常化の際には、
 わが外交当局が、共同声明のな
 かの「覇権」問題の重要な含意
 にまゝたゞ気づかなかつたこと
 であるといえよう。当時、日
 中共同声明について、外務当局
 の公式の解説をおこなつた外務
 省条約課長は、「日中国交また
 は第三国による覇権追求の否定
 は、米中共同声明にも述べら
 れているところであり、これも
 いわば当たり前のことであら
 と説明していた。このように、
 「覇権」問題が当時はいとも安
 易に受けとめられていたこと自
 体、「対米追随」外交の悪弊な
 いしは残留（し）の露呈だとも
 いえなくはないが、より本質的
 な問題は、この段階でアメリカ
 トリノに基つたアジア集団安保
 構想の提起以来、はやくも「覇
 権」ないし「覇権主義」反対の
 戦略を固め、その伏線を設けて
 きたのであつた。すなわち、内
 政的には七〇年元旦の三紙誌共
 同社説「偉大な七〇年代を迎え
 て」以来、対外的には七一年十
 一月の国連総会における高冠華
 演説以来、二つの超大国の「霸
 権」と「覇権主義」に反対する
 立場を明確にし、さらに七三年
 元旦の共同社説「年頭の言葉」
 以来、「深く地下道を掘り、い
 たるところで食糧を蓄え、覇権
 を求めない」という毛沢東最高
 指示によつて裏付けをおこな
 っているのである。

「覇権」の意味するもの



中嶋 嶺雄

この用例からも、中国の唱え
 る「覇権」反対の意味は確認で
 きるのだが、さらに考えるべき
 点は、中国語における「霸」と
 いふ語のニュアンスであらう。

今日中国は、先の第四期
 全国人民代表大会の周恩来報
 告、張春橋報告にも明らか
 うに、「帝國主義」、「植民地
 主義」といった社会科学の概
 念に並んで「覇権主義」とい
 う表現を用いているが、この「覇
 権主義」については、鄧小平副
 總理が昨秋の國慶節に参加した
 海外華僑代表への非公開談話の
 なかで、「もし二つの社会主
 義大國がひとたび資本主義を復
 活すれば、国際上必ず覇権主義
 になり、必ず帝國主義になる」
 と定義づけをおこなっている。

このように、中国の立場は一
 貫しており、同時に、米ソ兩大
 國の「覇権」から二つの「霸
 権」反対へと論点が移行してい
 るが、その含意は広く、情勢に
 応じて対象は移行するであら
 う。因みに、中国の政治的立場
 が言語のうえでも反映する「新
 華字典」の一九七一年修訂本か
 らは、「霸權」という項
 に、「武力もしくは経済力によ
 って他國を侵略、圧迫し、自己
 の勢力を拡大する國。アメリカ
 帝國主義は世界に霸を称えんと
 妄想している」という用例が出
 ているのである。

これは英語へ「ヘゲモニー」と訳し
 ただけではすまれない含意を
 もっている。周知のように「霸
 とは、「春秋の五霸」といわ
 れるように「王」にたいする
 言葉であり、王道によりて天下
 を制するのな、霸道を求めて
 諸侯の盟主たんとする者を、
 古来、覇者といつた。この覇者
 の権力が「覇権」であるが、
 「覇」という語には、それだけ
 にきわめて色濃く戦略的意味
 が含まれているといえよう。
 この点で、「覇権」について
 「軍事的、政治的、経済的に権
 力を拡張して支配する」とい
 解釈する外務省の立場（四月二
 十三日の衆院外務委員会の答
 弁はそれなりに正当ではあり
 うが、これにつけ加へるなら
 「覇権」という言葉は、そのや
 も中国語にはない言葉であり
 （従つて、新華字典にも出てい
 ない）ばかりか、中文大辭典にも
 諸橋・大漢和辭典にも出ていな
 い、「東洋の覇権を争う」とい
 った大東亜共榮圏時代の日本
 語を、「自力更生」同様、中国
 側が受容した言葉だと思われる
 ことである。だとすれば、「覇
 権」問題の意味するものは、ま
 すます深く深いだけに、こゝで
 はさしあたり、「日本の外交政
 策は一般に自先の急務にこだわ
 る特徴がある」という、日中交
 渉にかなする『ザ・ガーディアン
 (英)』紙（三月四日）の痛
 烈な言葉をかみしめておきた
 い。（東京外語大助教 中嶋 嶺雄）